

ツネログ

#16 2025年12月号

皆さん、こんにちは。

11月22日、国立競技場で行われた天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会決勝は、FC町田ゼルビアが3-1でヴィッセル神戸に勝利して初優勝を飾りました。

町田は立ち上がりの先制点、そして2点目にかけてもエンジンの掛かりが早く、初めてのタイトルにける気持ちがヒシヒシと伝わってくるような試合展開でした。選手たち、ファン、サポーターの応援の後押しを受けながら、最後まで高い集中力を見せました。一方、準優勝の神戸もリーグ3連覇を逃がしたとあって天皇杯2連覇に対する意気込みは強く、後半スタートからの畳みかけを見ても気迫を感じました。

この伝統ある天皇杯を私もガンバ大阪の選手、また監督として経験していますが、さまざまなカテゴリーとの試合、リーグ戦と並行して戦うマネジメントなど決勝までたどり着くのは簡単な道のりではありません。決勝の舞台までしっかり勝ち抜いてきた両チームには敬意を表したいと思います。天皇杯決勝にふさわしい素晴らしい戦いでした。

天皇杯決勝を元日に戻すという案については引き続き協議していきます。個人的には元日のお昼はサッカーがある、天皇杯がある、という世界を続けていければと思っています。元日は天気の良い日が多く、大気も澄んでいます。ピリッと張り詰めた空気の中でサッカーができる喜びを、サッカーに触れる喜びを、サッカーファミリーの皆さんに再び感じてもらえたらなという思いです。

天皇杯決勝と同日に釜本邦茂さんのお別れの会が都内で開かれました。釜本さんの若かりし頃の映像が流れ、「ゴールしか見ていなかった」という言葉もありました。日本のサッカーがさらに強くなっていくには、

ゴールを奪うことへのすさまじい意欲というものが抜け落ちてはならないのだと、あらためてその思いを強くした次第です。

また、カタールで開催されたFIFA U-17ワールドカップにおいて、日本は準々決勝でオーストリアに0-1で敗れました。チャンスを何度もつくっていただけに最後までゴールを奪えなかったことは残念で、釜本さんの言葉がより心に響きました。それでもグループステージを首位で通過し、ラウンド16で朝鮮民主主義人民共和国とのPK戦を制して14年ぶりに8強入りを果たすなど、よく戦ってくれました。次のカテゴリーで今回の悔しさをぜひ晴らしてほしいと思います。

そして最後に、FIFAワールドカップ26の組み合わせが決まり、SAMURAI BLUE(日本代表)はオランダ、チュニジア、欧州プレーオフB組の勝者(ウクライナ、スウェーデン、ポーランド、アルバニア)と同じグループFに入りました。私も森保一監督とともにワシントンD.C.での組み合わせ抽選会に出席しましたが、簡単なグループだなのというのが率直な感想です。オランダは個の特長を持った選手が揃う強豪であり、チュニジアは守備がしっかりしている印象。欧州のプレーオフで上がってくるチームも当然ながら強いでしょう。1、2位で勝ち上がればブラジル、モロッコのいるグループCとのラウンド32が待ち受けています。グループステージ+ノックアウトステージの戦いを勝ち抜いていくにはやはり総合力が求められます。戦力の拡大と充実を図っていくとともに、本大会に向けて欧州勢との強化試合、暑熱対策などの準備も進めていきます。「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」を合言葉に、皆さんと一緒に歩みを進めていきたいと思っています。

公益財団法人日本サッカー協会 会長 宮市恒靖



天皇杯 JFA 第105回 全日本サッカー選手権大会

会長の活動報告

2025年10月8日～11月20日(抜粋版)

10/10(金)

47FA代表者会議(ホテルマイステイズ大阪)



大切に思うこと
47都道府県サッカー協会(FA)、9地域FAの代表者の皆さまにお集まりいただき、JFA成長戦略および47FA発展戦略についての話をさせていただきました。日本でサッカーをもっと大きな存在にするために全国の皆さんとともに歩んでいければと思います。

10/22(水)

FIFA U-17女子ワールドカップモロッコ2025™ U-17日本女子代表 vs. U-17ザンビア女子代表(モロッコ/サレ)



優勝したDPR Koreaに準々決勝で敗れ、ベスト8で大会を終えました。U-20を含め女子の育成年代ではDPR Koreaになかなか勝てていませんが、もう一度世界一になるために、基盤強化からしっかりと取り組んでいきます。

10/10(金)、14(火)、11/14(金)、18(火)

キリンチャレンジカップ2025 SAMURAI BLUE vs. パラグアイ代表 (パナソニック スタジアム 吹田)

vs. ブラジル代表(東京スタジアム)
vs. ガーナ代表(豊田スタジアム)
vs. ボリビア代表(国立競技場)



南米、アフリカのチームを相手に3勝1分け。特にブラジル戦では0-2から3点を奪い返し、史上初めて勝利することができました。強化試合で良い結果を出し続けていますが、ここからが大事。ワールドカップに向けてしっかりと準備していきます。(写真は森保一監督100試合目となったボリビア代表戦)

10/26(日)

臨時評議員会(JFAハウス)

10/28(火)

JFA理事会(JFAハウス)

10/29(水)

WEリーグ理事会(JFAハウス)

11/1(土)

2025JリーグYBCルヴァンカップ 決勝(国立競技場)



柏レイソルの黄色とサンフレッチェ広島の色で染まった国立競技場は素晴らしい雰囲気でした。昨年から大きく大会方式が変わりましたが、今後もより多くのドラマが生まれることを期待します。

10/15(水)

第61回全国社会人サッカー選手権大会 決勝 (プライアーススタジアム)



両者が積極的にプレーした好ゲームでした。本大会の開催にご尽力いただいた青森県サッカー協会をはじめ、関係者の皆さまに感謝するとともに、来秋開催される「青の煌めきあおもり国スポ」の成功を祈念いたします。

10/16(木)、17(金)～19(日)

AFCアワード2025、AFC加盟協会及び 地域連盟 会長&事務総長会議(サウジアラビア/リヤド)



高橋はな選手が年間最優秀選手賞(女子)、浜野まいか選手が年間最優秀アジアインターナショナルプレーヤー賞(女子)を受賞しました。なでしこの選手たちの活躍が世界でもしっかりと評価されています。

11/6(木)

サッカー日本代表 2026 ホーム ユニフォーム発表 メディアブリーフィング デフサッカー日本代表・日本女子代表壮行会(blue-ing!)



新ユニフォームのコンセプトはHORIZON(水平線)。水平線の向こうに広がる最高の景色をワールドカップで全国の皆さんと共に見ることができればと思います。また、デフリンピックの代表チームは男女ともに銀メダルを獲得。これまでで最高の景色を見せてくれました。

11/10(月)

JFA・アディダス「サッカー日本代表 2026」
キャンペーン共同発表会(STARRISE TOWER)

11/19(水)

WEリーグ理事会(Jリーグ)

11/20(木)

9地域代表者会議、JFA理事会(JFAハウス)



理事会トピックス

2025年度第14回理事会が11月20日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

事案決裁規則と表彰規則を改正

JFA内部の手続きの際に必要な「事案決裁規則」、および「表彰規則」を実態に合わせて適正化するため、それぞれ改正することが決まりました。

2026年度以降の47都道府県サッカー協会向け一括補助金 交付

2026年度以降の47FA一括補助金の交付内容と上限額が決議されました。JFA成長戦略と連動したもので、補助金制度としては31年度までの5年間で、交付上限額は登録者数によって変動するため、毎年理事会に付議することとなります。

2026年度の9地域サッカー協会向け一括補助金 交付

2026年度の9地域FA一括補助金の交付内容と上限額も決まりました。期間は26年4月1日～27年3月31日です。総額は2017年以降同規模で、例年通り2026年度予算に計上されます。

報告事項

宮本会長ら4人がFIFA常任委員会委員に選任

第33回FIFAカOUNシル会議が10月2日にスイスのチューリヒで開催され、宮本恒靖JFA会長が競技規則委員会委員長に、土肥美智子JFA医学委員が医学委員会委員、野々村芳和JFA副会長が男子クラブ競技会委員、田嶋幸三JFA名誉会長(FIFAカOUNシルメンバー)がオリンピックサッカー委員会FIFAデレグートに選任されました。任期は2025年から2029年となります。

AFCアワード2025で日本女子選手2人が受賞

AFCアワード2025が10月16日にサウジアラビアのリヤドで開催され、高橋はな選手がAFC年間最優秀選手賞(女子)を、浜野まいか選手がAFC年間最優秀アジアインターナショナルプレーヤー(女子)を受賞しました。なお、同日開催された第7回AFC理事会で、2026年はタイで開催することが決まっています。

「JFAカスタマーハラスメント対応方針」を策定

改正労働施策総合推進法の改正への準備事項として、「JFAカスタマーハラスメント対応方針」を策定しました。JFA公式Webサイトなどで情報を開示するとともに、役職員への教育や事案発生時の日常業務体制の整備を行っていきます。

Information

天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会 決勝戦 サカタインクス株式会社が「天皇杯アスパス!パートナー」に決定

JFAは、各種印刷インキ・補助剤の製造・販売を行うサカタインクス株式会社と天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会決勝戦における「天皇杯アスパス!パートナー」契約を締結しました。これはJFAが取り組むSDGs推進プロジェクト「アスパス!」の一環で、社会課題解決に向けた持続可能な取り組みを天皇杯の大会運営にて体现するために、今年からスタートした協賛カテゴリーです。決勝戦当日は、同社が取り扱う環境配慮素材を使用した表彰台の装飾や来場者へのノベルティシールの配布、紙コップのリサイクルゴミ箱の設置などを行います。※10/30発表

アディダス サッカー日本代表 2026 ホーム ユニフォームが完成

JFAとJFAオフィシャルサプライヤーのアディダス ジャパン株式会社は11月6日、「サッカー日本代表 2026 ホーム ユニフォーム」を発表します。コンセプトは「HORIZON(水平線)」。胸中央部分に日本を囲む海と空の水平線を想起させるグラフィックを施し、首の付け根部分に付けられた日の丸が、日本を背負ってピッチに立つサッカー日本代表の誇りと覚悟を示しています。GKユニフォームには、仏教で釈迦を守護する神とされる「阿修羅」から着想を得たグラフィックを採用。阿修羅と、最後方からチームを支えゴールを守るGKの勇姿を重ね合わせた、大胆かつ力強いデザインとなっています。

SAMURAI BLUEはFIFAワールドカップ26に「優勝」を目標に掲げて挑みます。このユニフォームは、水平線の先にある明るい未来や無限の希望が広がる「最高の景色」を表現したデザインで、選手、チームと共に戦う全ての人の勇気と強い意志を表すものです。※11/5発表

「最高の景色を2026」オフィシャルアンバサダーに「JI BLUE」! 応援プロジェクト「BLUE WING ACTION」もキックオフ

「サッカー日本代表『最高の景色を2026』オフィシャルアンバサダー」にスペシャルユニット「JI BLUE(ジェイアイ ブルー)」の就任が決定しました。JI BLUEは、グローバルボーイズグループJO1とINIのメンバーのうち、サッカーを愛する12人で結成されたユニットで、サッカーと音楽の力を融合させて応援の輪を世界中に広げるとともに、夢を追い続ける全ての人の挑戦を後押しする役割を担います。

また、JFAは「最高の景色を2026」の応援アクションとして「BLUE WING ACTION〜世界に見せよう、応援のチカラ〜」を開始します。SNSや公式アプリ、各地のメッセージスポットで応援アクションを集計し、その数が200万を達成した場合、来年サッカー世界一が決まる場所であるニューヨーク市街地にて応援ムービーを放映します。集計期間は2026年3月31日までで、結果は4月上旬に発表予定です。※11/10発表

その他の主なニュース

- ・ JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会 Hyundai Mobility Japan株式会社と「U-12カテゴリーパートナー」契約を締結(10/10発表)
- ・ JFAオフィシャルグッズ 初の「フットサル日本代表グッズ」が好評販売中(10/10発表)
- ・ FIFAアラブカップ カタール2025に飯田淳平審判員が選出(10/17発表)
- ・ BLUE DREAMみらいスクールin 高知を11/3に西土佐西南大規模運動公園で開催(10/22発表)
- ・ 「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」リバープレート(アルゼンチン)へ4選手が短期留学(10/27発表)
- ・ JFAクラウドファンディング 「被災地に力を2025 | 能登半島地震サッカーファミリー復興支援金」を実施(10/29発表)
- ・ 第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 大会史上初の公式アンバサダーに長谷川唯選手が就任(10/31発表)
- ・ JFA×ANA価値共創活動「JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会 応援企画 produced by TEAM BLUE」小学生チームを全国大会に招待し、交流サッカーや「夢の教室/特別編」を実施(10/31発表)
- ・ 「第2回JFA夢フィールドデー」を11/15に高円宮記念JFA夢フィールドで開催(11/6発表)
- ・ JFAアカデミー福島女子15期生 神愛花選手がINAC神戸レオネッサに加入決定(11/6発表)
- ・ 「育成年代応援プロジェクト JFA アディダス DREAM ROAD」バイエルン・ミュンヘン(ドイツ)へ4選手が短期留学(11/12発表)
- ・ 「JFA×MS&AD なでしこつばみ」プロジェクト 12/15に東京都内で「JFA×MS&AD 地域スポーツ改革カンファレンス」を開催(11/17発表)
- ・ JFAこころのプロジェクトがSDGs Week EXPO 2025「エコプロ」に出展(11/19発表)



動画も公開中!

公益財団法人全国高等学校体育連盟サッカー専門部 部長

玉生謙介さんをマンマーク!

第16回は公益財団法人全国高等学校体育連盟(高体連)サッカー専門部部長の玉生謙介さん(学習院高等科教諭、同サッカー部監督)が登場します。

第104回全国高校サッカー選手権大会は12月28日に開幕。高校サッカーの魅力について2人が語り合います。

高校サッカーならではの魅力、NEXT100——高校サッカーの未来

宮本 僕はガンバ大阪の育成組織出身。同年代の選手たちが満員の国立競技場でプレーするのをテレビで観て、うらやましいと思いました。一方で(高体連の選手には)負けたくないぞという思いもありましたけど(笑)。高校サッカーだからこそ身につけられるものって何だと考えますか。

玉生 部活動は教育活動の一環であって、サッカーだけじゃなく人間教育という部分が多分にあります。僕は普段、学習院高等科の教師として授業をしていますが、高校生活から把握できているので深い指導ができるというのは、よく言われているところ。でもクラブチームでも人間教育をきちっとやっていかなきゃいけないと力を入れてきていると思うんです。その意味では高体連だから、クラブのユースだからという違いは、だいぶなくなりつつあるようにも感じますよ。

宮本 自分もガンバ大阪でU-13、U-18など育成年代の選手を教えてきて、いかにうまくもらって、いかにプロにつなげていくかを当初は考えましたが、やっぱり人間教育が大事だようになって最終的には思いましたね。夕方からの練習が始まるまでどのように一日を過ごしてきたかを(クラブの指導者が)把握するのはなかなか難しい。長い時間、子どもたちと接することができる場があるというのは、選手もそうですけど、指導者にとってもすごく大事だなんて感じますね。

玉生 サッカーの授業をするときに、そこには部員もいるわけじゃないですか。ほかの生徒との関わり方だったり、こんなキャラクターだったのかって分かったり、いろいろと見えるところがあるんですよね。そこを踏まえた上で指導のアプローチが変わったりもします。何も分からないままだとその生徒からしたら「僕のこと分かってんのかな」と内心、思っているかもしれないですからね。

宮本 指導者の視点で高校サッカーを通してきた人たちに感じるのは、自分を売り込んでいける力。強豪校になると何百人も部員がいる中、試合に出るために指導者の目に留まるようなプレーをして試合に出ていく機会を自分でつかんでいかなきゃいけない。そこからプロになる選手はガラガラ感をより出していっている印象がありまして。どうすればこの多くの中から生き抜いていけるか、その体験を得ているというのは大きいと思います。もちろんクラブの育成組織ならではの良さもあります。

玉生 いつも「FUJIFILM SUPER CUP」に合わせて「NEXT GENERATION MATCH」としてU-18 Jリーグ選抜と高校選抜の試合をやっていますが、今回シーズン移行の関係で大会がないので、どうするか検討中です。互いに負けられないすごくいい企画だし、クラブユース連盟と高体連と一緒に何かできる機会はなかなかないので、何とかできないかと話を進めさせてもらっています。

宮本 いいと思います。高校選手権も年末に始まります。100回を超える伝統の大会で、数々の名選手を輩出してきました。今、海外でも放送されたりしているわけじゃないですか。本当にたとえばの話として聞いてもらいたいのですが、将来

的に海外のユースチームが出てみたいとかそんな声が挙がったら、インターナショナルな大会に発展していく可能性もあったりするんですかね。

玉生 いや、高体連の加盟校による大会なので、そこを超えていくという発想自体、自分の想像をはるかに超えちゃっています(笑)。かつて海外のチームを招待して高校選抜と試合をするニューイヤーユースサッカーがありましたし、今は高校選抜で海外に遠征していくことをやっているの、そういうものを利用した形はあるのかなとは思いますが、ただ(高体連の枠を)超えて参加ということであれば、クラブチームを加えたトーナメントの大会は面白いのではとの声もありますね。正式に議題に上がったことはないですけど。

宮本 高体連とクラブチーム、やっぱり互いが切磋琢磨して、その年代のサッカーの質を上げてほしいなと思います。育成強化において、すごく大事な役割を果たしてもらっていますから。そしてJFAは「ダブルピラミッド」を謳っていますので、トップエリートに行けなくて違う道に進んだとしても、サッカーができる環境を整えていかなければなりません。高体連のサッカー部も、その受け皿としての役割を担っていただけたらなと思っています。そういう人たちが大人になっても、サッカーファミリーであり続けてもらえるような世界を目指していきたいので、これからもぜひよろしく願いいたします。

玉生 まず高校選手権に関しては、「高校サッカーNEXT100」というフレーズにもあるように、200回、そしてその先を超えていける大会になってほしいですね。われわれ、高体連としてはこれまでやってきたことの意義を忘れず、日本のサッカーがこれからますます発展していくために貢献できる連盟でありたいと思っています。



玉生謙介(たまにゅう・けんすけ)

1972(昭和47)年11月3日生まれ。東京都出身。桐朋高校、筑波大学でプレー。筑波大学大学院在籍時に同蹴球部のコーチを務める。1999年より学習院高等科に保健体育科教諭として勤務。同校サッカー部の顧問・監督を務め現在に至る。東京都高体連サッカー専門部委員長(2019~20年度)を経て、21年より全国高体連サッカー専門部部長。

※次号は2026年1月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

